

210601 石垣部会
(名古屋市民オンブズマンによるメモ)

10:31

鈴木：始める
リモートで開催
発言の前に挙手を

佐治：42回参加ありがとう
緊急事態宣言なのでリモート
搦め手馬出
その他 文化庁化に解体指摘事項回答を文化庁提出した
レーダー探査を示す

鈴木：出席者紹介
北垣、赤羽、千田、西形、宮武、梶原、洲崎
録音録画はこれまで
資料1から3
ここからは座長

北垣：おはよう
緊急事態宣言 今日から継続
3月以降は開催できない状況 検討課題が残されている
時間もできれば全員がそろっている中ですべて終えたい
事務局より説明を
議題1 本丸搦め手馬出修復

鈴木：事務局から説明
議論の再確認
3月現場視察の報告 1-1から1-5まで

名古屋城：1-1
令和2年度調査の報告
逆石が連続発見 3月確認 角度調整可能か

西本：3月現地視察 資料内容を踏まえたもの
搦め手馬出東面石垣

栗石
慶長期の石

鈴木：1つ目は以上

10:46

北垣：資料説明1

ご意見ご質問は 挙手で

千田：報告ありがとう

調査所見はなるほど納得

天和の修復、初期の石垣 積みなおしされていたか

慶長期の石垣が変形した後 天和でどうしたのか

ヘドロの堆積 土層 工学的に検証 よい成果をあげたと思う

北垣：ほかには

宮武：声は聞こえるか

結論がでない？設計時に考えないと

写真資料出せるか

図の3アップで 西本さんの確認

赤線の上がヘドロ 慶長期の裏土

オリジナルの上に流出しているという説明か

西本：その通り

宮武：自然に流出したのか？

西本：後ろが崩れたのではないか

宮武：何とも言い難いが、人為的にひきならしている可能性は

スロープを作るように

普通は乱暴でやらない

予想外に土砂が入ってきたらどかす

健康なものではない

下 写真を見ても 図の6出せますか

慶長の栗が見えない

土で汚れているのか？

西本：土で汚れているのもあるが、
後ろの栗石を外した
栗石は除去した状況の写真

宮武：図の3

栗の中に黄褐色土が混ざっている
怖いのは、天和の改修でいらんことしてないか
見た目はスカスカ 復元よくない
慶長オリジナルか、かき下ろしたようなことか
調査をして感触は

西本：土層が見えるようにトレンチ状
栗石がかなり汚れている

宮武：それなら安心

西形：言われてみればそう 後ろから土砂が流出したのではない？
意図的に混ぜている？
こういう状態で残しておきたくはない
少し調査の後、土砂が混入させたものはクリーンなものにしてくれると安心

宮武：全く同意見

もう一回よく見て設計でどう反映するか
栗層では安定している
先ほど はつりの石材 どうするか
改修直後 妥当か
かなり最終段階 テクニカル 細かな討議
石工職人、コンサル、西形
逆石取り扱いが決まった
詰めを別途やらないと
やり取りするには時間的制約 マニアックな話
設定してほしい

北垣：宮武、西本

土砂の混入 クリーンにして
議論がきちっとしたものにならない
設計に意識するか どう反映するか

事務局で考えて
その他意見は

千田：栗石の状況

資料1-3 図の5

これを見ると、トレンチ的に掘り下げたところ

栗石が土交じり 特異ではないか

俯瞰の写真

トレンチ両脇 調査前の栗石

喫水線よりほぼした

泥の交じりは多い

栗石が充填されている

特異な状況と考えるべきか 考えるべき

天和 大きな修理をしないといけなかったか

石垣変状

背面土から中に入ってくる 修理の際に防ぐのが重要？

左右の栗石

宮武：天和の栗石と理解した

西本：天和の栗石と慶長が混じっている

宮武：工事直後

撮影された 2段階、3段階一緒に映っている？

千田：土交じりがはっきり

宮武：すぐ背面に大型の角礫 違う

黄褐色かぶりが強い

調査の写真を実際見せて

設計の前の手順が必要

千田：土が非常に多い

背面度の混ざり込み

慶長期の石垣の弱点？つかんでおいて

より強い石垣 どうするか 検討すべき

宮武：天和の石垣補修 慶長期の石垣が前倒れ

跳ね上がっている

栗がはずれ 裏土がずれて前に出てきている

赤丸の右端 栗が前に出ようとしている

健康な状態に変えないとまずいのではないか

北垣：今日は部会で検討したことの再確認

新たな調査についての意味合い

時間的に押している

あとでさせていただく

慶長栗、天和構造的な問題 もう少し確認

解体前

名古屋城：資料1-6

修復後のイメージ 鳥観図

排水勾配

名古屋城：排水機能が失われている

11:09

北垣：ご意見は

宮武：千田先生とも意見を聞きたい

機能の問題

馬出全体の排水機能

枡形内部 十字になっている

公園化が進んだから？

江戸期から十字？

オリジナルの立体図なのか

公園化されたから道をなしているか

枡形内部 移動導線 あまり聞かない

千田：気になっていい絵図ないか探した 確認できなかった

馬出 道を規定している 築城当時は考えにくい

馬出が使わなくなった 広場のように

木を植えた ある時期以降はこうなったのか？

総合事務所のほうが詳しいのでは

名古屋城：築城期 不明

金城温故録 搦め手馬出だいたい 十字の道が切られている

宮武：方向が難しい

図面上十字になっている 上側

スロープが上がっている

雁木じゃないとおかしい

道のおかげで水路が規定される

十字の道＝排水路線

土手面は金城温故録は？

名古屋城：Y字の道 金城温故録載っていない

「坂」となっている

宮武：石組み遺構はみごと

地表面より下に位置している

整備として生かすとメンテナンスの方法を考えないと

そもそもより

金城温故録 十字の道

本来、やるべき議論が逆転している

物体としての馬出石垣 どう復元していくかテクニク

それはそれでいい

それよりまえに、そもそも馬出はいつの時代に戻すか

マニュアルがない

工事解体前の形か

価値の通用性 幕末の最後に戻すか

スタートライン 整備の理念 基本方針を先に作らないといけない

テクニカルの議論に進まない

逆になっている

逆石 理念に合わせてどうするか

不安定な要素 土盛 不健康だが文化財としてどうするか

土台とするための基本方針や基本計画がない

十字の道路どうするか

公園化か

事務局として明確にあるのか

解体開始時に作ったものはあるか

鈴木：3月まで議論したのは、積みなおしに関する基本方針

・孕み出し以前に戻す

石垣についてイメージ＝天和修復とニアリー

石垣 天端空間 天和以降に公園 踏まえるかは現時点では議論していない

宮武：順番が違うとはいえ、やらないといけない

立体構造物 どこにセッティングするか

上の十字の道筋

バイブルとすべきもの 石垣重視

馬出を

一昨年 設計のための勉強会

全部の城はどの時代 真正性 まずないといけない

おそらくリンク付けができていない

全体整備検討会議に諮りなおして

西の丸蔵の整備も

搦め手のコンセプトを急ごう

鈴木：速やかに検討したい

北垣：基本的な方針

あらためて

できるところからやる

事務局に置かれては考えて

千田：会議 昭和測量図を見た

現状と同じ十字の道がついていた

江戸のある時期十字の道がついていた

細部は違うよう

整備 近世初頭に戻すのは事実上難しい

幕末期 この形にせざるを得ない

今回暗渠 うまく活用しながら排水

全体整備検討会議で議論すべき

天守をめぐる議論 屋根をどうふくのか

「創建期に」総合事務所発言

下は幕末 めちゃくちゃ

どの時期に直すのか認識が足りていない

くぎを刺しておきたい

北垣：調整して

梶原：写真暗渠

奥の方に石垣が見える

このラインが暗渠があった時のもの？

名古屋城：石垣 多分石垣のあとに暗渠を作っている

梶原：地表面はもつとした？

名古屋城：ならしている？

千田：門のところ 通路幅暗渠は一般的

根石

下になっていたというのが普通

読み解きを検討して

北垣：複数の時期？

千田：そう 門の下に暗渠 一般的

もともとも排水した可能性

11:29

北垣：あらためて精査して

資料3 石材の調達

名古屋城：1-9

石材 考え方、調達先

西本：主要石材

再利用判定 不可とした石材

花崗岩、花崗閃緑岩が主

尾鷲のみ

豊田産などを使用してきた

白い石材

恵那、豊田も視野に入れている

現在城内仮置き石 使用できるか

意見頂戴したい

北垣：簡単に意見を

宮武：先行事例を検証は重要

調達地 整合性をとっているのは少ない

遺跡としての価値

過去の例 岩質まで分析 多くはない

ほかの事例 同質な石材 慎重に

よそから持ってくる前に、ほおっておいている石材はどれくらいあるか

石山 どう処理するか

そこから有効活用

築石放置石材はどこにどうあるか

角石もある

後半レーダー探査 発注かけるまえに事前によくよく検討して

発注2度手間はなくなる

北垣：名古屋城内石材は結構あるのではないかと 再確認

各地では石材確保が困難

特別史跡ではあるが、幅広い調査をしないと

基本設計の中にいれてもいいのでは

正午までということになっている

次に進めたい

資料説明4 積みなおしの見通しについて

11:37

鈴木：資料11

優先順 目標時期

左上3つ

今年度事業 来年度からの積みなおし工事

逆石残り 角度調整に取り組みたい

下半期設計

年明けを想定

年度末までに

北垣：資料1-11

これから

10数年ぶり 具体化する

大きく分けて3つの段階 1つの完成型に持っていかう

一つ一つが大きな課題

もう少しあるか

可及的速やかに
内部で進めていくが、その際になにか場づくりが必要では
方向性を認めていただけるか
早速方向で具体的に進めていただく
いよいよ議題2 御深井丸側レーダー探査

11:42

村木：簡単に説明する

昨年度末諮った 指摘事項の中でやってきた
3月末 令和3年度に行う調査
資料2-4 計画しているもの
レーダー探査する
石垣面、地面レーダー探査
戦災時被熱劣化、変状が顕著
資料2-2, 2-3
平成29年度調査以来 調査は変えていない
考え方
資料2-2, 2-3
外観調査やってきた 状況悪いところを把握してから
地中レーダー探査 下 天端にあたる部分
北側通路 発掘調査をした
背面までは至らなかった レーダー探査する
資料2-1 石垣調査について
劣化状況把握 できていない
もう一度外観確認する
天守台処置 把握したうえで
石垣保存方針を秋をめどに作成する
保存方針 夏までに作成
すべてが一律に整うわけではない
まずは目視調査を優先
御深井側
ご了解いただけたら全体整備検討会議に諮る

北垣：資料2-1, 2, 3, 4
全体整備検討会議に報告したい

千田：現状で石垣が変形、変状、被熱による劣化著しい
レーダー探査は賛成

目視して効果的にレーダー探査 尽きる
名古屋市として、管理団体なのでいつくるかわからない大きな地震
丸亀城 大雨で崩れる
すぐ上が園路 通行できなくなる
管理団体としても絶対の安全を確保しないと
本丸 人命にかかわるものではない 本質的価値を持つ
西形先生お詳しい 文化庁安定性指針を図る
レーダー探査
補強せざるを得ない 具体策を効果的に

西形：新たなレーダー探査

土橋 鶉の首 気になっていた 変状が見られる
表面劣化 今回の工事に先立ち、結論を出して
対策を施して 表面状況の把握

赤羽：資料2-1 今後の進め方

策定は危険性の高い石垣を優先
「危険性の高い」意味はどうか
どう策定するのか
地震 崩落する場合に復元
どう復元構築するか 現実的でない
危険性の高い 突き詰めて考える必要がある

西形：具体的に石垣の安定性 多くはない

千田先生 熊本城 安定性指針動きつつある
将来的に全国バージョンになる
踏襲して石垣 あくまで工学的検討
工事に向かっても安定性担保するためにも
難しいところ 心づもりをして

千田：調査箇所

本丸の内堀 北西角 堀底にでこぼこ 地表面に石
雨水よってくるところ
気になりませんか

北垣：多くの課題

文化庁指摘事項 相当しっかり検討してきた
なおかつ、

これから取り組む必要がある
今日のいただいた話をトータルで全体整備検討会議に報告したい
早く出さないと現実的な修復工事が始まらない
内部の検討を早く
報告したいが ありがとう
全体整備検討会議にかけてほしい

村木：ありがとう 今後ともよろしく

北垣：報告事項
二の丸地区発掘調査

名古屋城：手短に

高橋：二の丸地区発掘調査
本年度 調査条件も違う

名古屋城：資料3-1, 2
体育館の左 本年度調査
トレンチ
馬場 模擬砂
痕跡は確認できなかった

12:08

北垣：報告事項 馬場の可能性
ご検討いただきたい
最後になったが、県民文化局 洲崎さん

洲崎：一步一步進んでいる

北垣：ご検討いただいた
終了したい

鈴木：先生方 ありがとう
予定していたことはすべて
今後活かしたい
時間超過して申し訳ない